

ボスニア・ヘルツェゴビナ：復興から開発へ

ボスニア・ヘルツェゴビナは快方に向かっています。1995 年後半に終了した、3 年半にわたる戦争では、少なくとも 10 万人の人々が死亡あるいは行方不明となり、200 万人が強制移住させられました。また、地雷が大地を穴だらけにして、インフラストラクチャと経済はほぼ完全に破壊され、サービスは壊滅的な状態となりました。これまでの 10 年間で、数多くの避難民が戻り、インフラストラクチャと基本的サービスはほぼ戦前のレベルにまで復旧しており、経済と社会開発を総合的に見れば、国家と国民はかなりの発展を遂げています。復興の先の道筋として、現在、この国が目指しているのは、改革をさらに推し進めて、EU に加盟すること、それから経済移行を成功裏に達成することです。

国別指標	1995	2005
1 人当たり国内総生産 (GDP) (単位:ドル)	780	2,600
平均インフ率 (単位: %)	39.5	2.8
国庫借入金総額 (対 GDP 比、単位: %)	73.2	45.4
財政バランス (対 GDP 比、単位: %)	-8.1	+0.7
海外直接投資 (FDI) 純流入額 (単位: 100 万ドル)	67	522
貧困者比率 (単位: %)	19.1 (2000)	17.8 (2004)
初等教育の総就学率 (単位: %)	92.3 (1996)	96 (2004)
5 歳未満の小児死亡率 (1000 人当たり)	12.1 (1998)	8.5 (2004)
産婦死亡率 (出産 10 万回当たり)	9.4 (1990)	2.9 (2002-04)
人口 (単位: 100 万人)	3.4	3.8

出典: ボスニア・ヘルツェゴビナ統計局、生活水準測定調査、UNICEF および世銀試算

世界の最貧国を対象とする世界銀行のファンド、国際開発協会 (IDA) は、大規模な投資を通じてボスニア・ヘルツェゴビナの復興をサポートし、さらに欧州委員会 (EC) ならびに他の多くのドナーと連携し、戦争で疲弊した国家への支援をかつてないほどの規模にまで拡大させました。



国別成果

ボスニア・ヘルツェゴビナの戦後復興は印象的なものでした。

3年半の戦争が残した負担

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)は、戦争による荒廃と分裂を経験し、地雷原によって痛めつけられました。警察と軍隊の検問所のせいで、移動する基本的な自由さえも許されていませんでした。

1995年末まで、BHの生産活動は、戦前の10%から30%程度のレベルにまで落ち込んでいました。GDPは、戦前のレベルのおよそ20%、1人あたり500ドル未満にまで縮小しました。基本的なインフラストラクチャやサービスのほとんどは使えものにならなくなってしまい、人口の80%以上は食糧支援からなんらかの援助を受けていました。破壊の規模が大きすぎ、戦争の被害総額を完全に計算するのも不可能な状態でした。最近発表された、現地の調査によると、サラエボだけでも、1417日に及ぶ記録的な包囲攻撃により、総額140億ドルの被害を受けました。

実を結んだ復興努力

戦争から11年が経ち、ボスニア・ヘルツェゴビナは、戦後復興、基本的なインフラストラクチャおよびサービスの再生、ならびに国家建設といった面で、著しい発展を遂げています。

今日のBHは、欧州大西洋機構への統合プロセスにあります。国中が荒廃した1995年当時、このようなことを予想しようとする人はほとんどいなかったでしょう。BHは、欧州連合(EU)への加盟、ならびに世界貿易機関への参加を実現するための取り組みを行なっています。また、2006年12月、BHは、NATOの「平和のためのパートナーシップ」プログラムへの参加を呼びかけられました。

同国の資源基盤は復旧活動が効果的になされた結果、ほぼ戦争前のレベルに戻っており、住宅は再建され、エネルギー供給は再び全国に行き渡るようになり、輸送インフラストラクチャも復旧されています。学校や医療施設も再建されており、ファミリー・ヘルスケア・システムが新たに導入され、教育改革が進行しています。

1995年以降は、極端な貧困はなくなり、GDPは3倍になり、商品の輸出は10倍に増えましたが、カレンシーボード制度の採用により、物価は安定した状態が続いており、2004年および2005年のインフレーション率は1%以下に抑制されています。平和と安定性を維持しながら、このようなことがすべて達成されたのです。

IDAの貢献

IDAは、1996年以降、BHで重要な役割を担っており、世界銀行の独立評価グループから成功の可能性が高いと評価された復興プログラムにおよそ10億ドルを投資してきました。ECのリソースと一体化した、かつてなかった規模の共同サポートを行い、BHがインフラストラクチャの修復、経済的な発展、および構造改革の強化を行なうのを支援しました。

戦争から10年が経った今も、IDAとECは、同国の2大財務サポート提供機関となっています。

国際的な支援が、BHの平和構築における障害を克服するのに役立ちました。

脆弱な新国家の基盤強化

ボスニア・ヘルツェゴビナの複雑な政治および行政システムは、デイトン和平合意の結果として作られたもので、IDAならびに同国で活動を行なっている他の国際機関やドナーにとっては、とりわけ困難な課題となっていました。この国は、制度上の成り立ちが異なる、2つの構成体——1つは共和国(スルプスカ共和国)で、もう1つは州が集まった連邦(ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦)——で構成されているため、国家の政府は弱く、分散した状態になっています。したがって、復興活動では、技術面および政治面での手腕が必要でした。

IDAはしばしば、共同のプロジェクトや活動の舞台裏で、地域のさまざまな党派を結びつける、触媒および有能なまとめ役となりました。たとえば、IDAの電力セクター・プロジェクトは、新しい国有の電力会社の設立を支援し、さまざまな融資は預入金の統括管理を行う保険機関、ならびに1度の会社登録で両方の構成体に登記される制度を導入するのに役立ちました。

このような方法で、IDAは、具体的なプロジェクトの実行だけでなく、より広い意味では、国内の社

会的和解の実現にも貢献しました。

ミッション・サラエボ

「1995年のボスニアでは、戦争当事者たちが復興を話し合うのは、ありえないように思えた。彼らは、話し合いの場所をどこにするかということにも、同意できなかったのである」作家のセバスチャン・マラビーはその著書「The World's Banker」(2004年)でこのように記述しています。

「実務的な問題、つまり、中央銀行は必要か、両者の相反する課税および関税システムをどのように調整するのか、といった問題にボスニア人の関心を向かせるには、世界銀行の仲介が必要であった」

相当量のリソースの注入

IDAは、戦後復興および開発のための活動については、当初より、大規模な取り組みを行っていました。世銀のチームが最初にBHに入ったのは1995年のことで、戦いがまだ完全に終わる前でした。それ以来、IDAは53のプロジェクトをサポートし、戦争で疲弊した国の住宅、エネルギー、輸送、学校など、ほぼすべてのセグメントの復興および開発を支援してきました。1996年以降、IDAはBHに総額11億ドルの支出——1人当たりのベースでは、紛争国の再興に関するものでこれまで最高の金額——を行ってきました。世銀管理の資金と、もう一方の資金提供先であるECの資金を合わせると、さまざまなプロジェクトの総額は27億4000万ドルにもなります。

このような紛争後の例外的な資金配分は、1995年後半のデイトン和平会議において国際コミュニティが誓約した、51億ドルの特別財務支援パッケージの53%程度に相当しています。

当初はBHの資金吸収体制および管理能力が弱かったため、戦後から数年間は、簡略された手法で、ただし個々の基本的な専門家としての原則をすべて、完全に順守しながら、資金提供を行っていました。BHは、継続的にIDAのリソースを例外的に利用することが認められており、その間も融資に見合った着実な発展を遂げています。

分析と政策アドバイスによるリソースの融合

IDAの財務支援は、多くの場合、綿密な分析作業にもとづいており、分析では所定のセクターの既存の状態、課題、ニーズ、および発展の可能性が評価されます。たとえば、IDAが資金提供を行なった、初期の2つの電力セクター復興プロジェクトは、BHの電力セクター発展戦略の推進をサポートするものでしたが、2つの電力セクタープロジェクトがこの後に続き、活動を補完しました。

IDAがサポートする、現在進行中の第2回生活水準測定調査(LSMS)では、各地の統計局がまだ潜在能力を十分に発揮する状態にまで至っていない国でさまざまな活動を実施するために欠かすことのできないデータが提供されます。

直近の世銀報告のなかには、労働市場調査や、公共支出および制度についての評価が書かれているものもあります。

他のドナーからのサポートの調整・仲介

IDAは、国際的なドナーが参加する5つの会議で、ECとともに共同議長を務めて欲しいという要請を受けました。この会議は、最終的に51億ドルをBHに投入することを決めるものとなりました。この資金パッケージは、BHの基本的なインフラストラクチャとサービスを迅速かつ成功裏に復興させる活動の中核となるものでした。国際的なサポート、とくに終戦直後のサポートが、あらゆる主要セクターで実施されたニーズ評価にもとづいて行なわれました。

ドナー間の総合的な調整役としての役割以外にも、IDAが特定のセクターにおけるドナー間調整の中心的存在として機能することが多くありました。その典型的な例が電力セクターです。3つの完了済みのプログラムと1つの継続中のプログラムを通じて、1億3000万ドルを資金提供していたIDAは、他の資金提供元から総額8億8000万ドルを調達するのに成功しました。オーストリア、ベルギー、BH政府、カナダ、チェコ共和国、欧州復興開発銀行、EC、欧州投資銀行、フランス、ドイツ、アイルランド、日本、オランダ、ノルウェー、スペイン、スイス、英国および米国が資金を提供し、資金は投資と関連セクターの改革を組み合わせられたプログラムに充てられました。

BH が EU 加盟を目指しているため、欧州大西洋機構への統合が、雇用の創出と公共サービスの改善とともに、今後数年間の IDA の国家支援活動にとってもっとも重要なテーマになることは確実です。IDA では、同国がこの加盟プロセスに対応できるようにするために、EC の支援を強く求めています。

IDA と EC がすでに連携して取り組んでいる分野としては、国境を挟んでの協力、堅実なマクロ経済環境の構築、強固な商事裁判所の設置、BH での統計の向上、中小企業対策と業界向け政策の策定、農業および地方の開発、環境、エネルギー、輸送政策、行政改革、および不正防止のための政策があります。

政策改革のサポート

2000 年以降、基本的な復興作業のほとんどが完了し、インフラストラクチャのレベルもほぼ戦争前の状態に戻りましたが、より重要視されていたのは、市場経済の導入に不可欠な、基本的な構造の改革でした。

IDA の支援では、民間セクター主導の成長と雇用、制度およびガバナンスの強化、民間セクターの改革、ならびに社会的持続可能性の促進に焦点が当てられています。

未達状態の重要なアジェンダも残っており、政策議論はいつも容易に収まるとは限りませんが、IDA のサポートを通じて、さまざまな重要改革に弾みがつけられました。そのような改革のなかには、銀行セクターの改革（このセクターは、現在、この地域でもっとも強固なセクターの 1 つと考えられています）、年金システム改革の初期ステージ開始、公共の土地登記システムの効率性と透明性向上などがあります。

融資を得る

BH における銀行セクター改革ならびにマイクロファイナンス・セクターの成功は、「ビジネス環境の現状 2007(Doing Business 2007)」と題された報告にも記載されています。ボスニア・ヘルツェゴビナは、金融の利便性という点では、全世界で 7 位にランクされています。

6 つの政策ローンの提供に加え、IDA は、過去 10 年間に作成された重要な報告、ならびに政策および提言に関するメモを利用して、改革をサポ

ートしました。このような努力の直接および間接的な成果として、BH では、マクロ経済を安定な状態で維持させるための管理がなされるようになりました。

複雑な政治環境ならびに地域の治安不安定は、依然として主要な政策改革実行の障害となっていますが、紛争後すぐに、いくつかの基本的な改革が開始されたということ自体が、すでに成功だったとも言えます。

民間セクターの役割強化

IDA は、BH のビジネス環境の改善でも、重要な役割を果たしています。現在の開発政策ローンでは、投資家向けのワンストップ・ショップが導入されており、BH で会社登録を行なうための時間と費用も、事業のための免許および許可を取得するための費用と同じく、大幅に削減される見込みとなっています。新たな土地登記プロジェクトでも、所有権がより明確かつ安全に記載されるようになるでしょう。世銀の「ビジネス環境の現状」報告のような分析業務も、この領域での政策論議に役立てられています。

コミュニティ開発と社会への受け入れ

BH での戦争とその直後の期間は、BH の社会の根幹部分に深刻な影響を与え、地域のコミュニティを揺さぶりました。世銀は、このようなコミュニティ——BH の復興、和解および開発のための活動に欠かすことのできない基本要素——の強化に特に注意を払いました。IDA は、BH の人口のおよそ 4 分の 1 に到達したコミュニティ開発プロジェクト、ならびに BH にマイクロファイナンスの導入を通じて 20 万人分の雇用を維持または創出した、2 つの地域イニシアティブ・プロジェクトをサポートするために、それぞれの地域で選定された小規模なインフラストラクチャ・プロジェクトを通じて資金供給を行ないました。

このようなプロジェクトは、社会への受け入れを主目的とはしていませんでしたが、さまざまな方法で社会への受け入れに貢献しています。

女性への支援

世銀のマイクロファイナンス・プロジェクトでは、借り手の 50%が女性でした。その結果、家族における女性の役割が強化され、女性が家長を務める世帯をサポートすることができるようになりました。戦争により、男性家長のいない家族が多く残されたことを考えれば、これは重要な貢献と言えるでしょう。

このコミュニティ開発プロジェクトで導入された、一般参加型意思決定方式は、少数派グループ(帰還者およびローマトリックの人々)や他の力関係の弱いグループ(たとえば、若者、女性、障害を持つ人々、ならびに特別なニーズを持つ人々)が、それぞれのコミュニティの開発優先順位を選定する作業に参画するのを大いに促進しました。

小規模な贈与を通じて、IDA は、シビルソサエティを強化し、もっとも力の弱い人々のグループを保護する、地域の非政府組織の活動支援も行っています。

戦争で荒廃されつくした国で、さまざまなセクターを横断し、さまざまな現場で業務遂行ができる、IDA の能力が、多様な成果を生み出しています。

住宅、暖房およびガス。1995年には、BHの人口のほとんどが戦争で破壊された家や集合住宅で暮らしており、そのような住居ではガラスの窓や簡単な暖房さえありませんでした。終戦直後に、2万2000の公共集合住宅や民家が、住宅および緊急再建のためのプロジェクトを通じて、修復されました。IDAの他の2つのプロジェクトでは、サラエボの地区暖房システムによる暖房供給とともに、国のガスネットワークの再生が可能となり、信頼性の高い、安全なガス供給が行われるようになりました。

電力および水道システム。終戦時、BHのほとんどの地域では、水や電気の通常供給が行われていませんでした。国内の電力供給網が破壊されたために、市民に電力が供給されなくなっただけでなく、南東ヨーロッパの電力供給網と他の西部ヨーロッパの供給網との接続が遮断されてしまいました。損害を受けたり、放置されたりした水道システムからは、大量の水が流出していました。過去10年間で、数百キロメートルにもわ

たる電力線および水道、送電所、ならびに火力・水力発電所が、4つの電源プロジェクトと3つの水道復興プロジェクトを通じて、再生されていません。

道路と輸送。戦争でほとんどの橋が破壊され、道路網は軍事活動と管理の不備により荒れ果てた状態となっていました。全長約2300キロメートルの道路、41の橋、3つのトンネルとサラエボの国際空港が、3つの輸送復興プロジェクトを通じて再建されました。

教育。IDAのプロジェクトは、戦争の被害を受けた、82の小学校を復旧させ、設備や備品を整えるのを支援しました。教育システム全体の近代化が達成されました。100種類以上の教科書が新たに発行され、国中の学童に配布されました。学校復興に関する政府の優先プログラムは、総額で2億7500万ドルになると想定されていましたが、世銀はそのうちの7.81%に相当する、2150万ドルを資金提供しました。

保健。戦いで壊された、5つの医療センターと15の病院が再生され、24の医療施設に機器が提供され、ヘルスケアの専門職のためのトレーニングが実施されました。4つのプロジェクトを通じて、家庭医療のモデルが導入され、急速に普及しており、全国のおよそ25%に行き渡るようになっています。

林業。戦争前にはBHの主要な経済活動の1つであった林業は、戦争の被害、適切な管理の不備、ならびに地雷原の拡大といった理由により低迷していました。IDAのプロジェクトを通じて地雷の除去が可能になると、約550ヘクタールの土地に植林がなされ、全長210キロメートルに及ぶ林道が復興され、さらに2つの補完的な林業プロジェクトを通じて新しい林道も作られるようになりました。

雇用。IDAの2つの雇用プロジェクトは、戦後のBHの最大の課題の1つである、雇用の促進を目指したものとなっています。さらに、2つの地域イニシアティブ・プロジェクトによって20万人分の雇用が創出およびサポートされ、35万件のマイクロファイナンス・ローンが提供されました。

また、社会セクター調整融資を通じて、雇用状態の改善、ならびに失業および職業斡旋関連法規の改革が実現されるようになり、結果的に(戦前

のBHの共産党体制ではとくに低かった)労働市場の柔軟性が改善されるようになりました。世銀が実施した労働市場調査も効果を発揮しました。

銀行セクター。事業および銀行の民営化を促進する融資がBHの銀行システムの後ろ盾の役割を果たした結果、銀行セクターは、現在、地域で最高のセクターの一つとみなされています。銀行は、過去4年間で総資産額を100%近く増やし、新たな信頼を得るようになってきました。

公共支出。労働再配置プロジェクトは、7000人以上の元職業軍人に雇用サービスを提供するというもので、かつての軍人を一般的な市民生活に社会統合させるためのモデルとなりました。その結果、政策立案者たちへの政治的圧力も緩和されるようになり、財政の安定を維持する政策の立案が可能となりました。

さらに、国家財政の管理を目的とした、2つの政策ローンも大きな効果を生み出しています。第三者監査の制度と新しい財務システムが立ち上げられ、予算管理が全体的に強化されました。4つの保健セクター・プロジェクトと1つの社会セクター・プロジェクトにより、保健および年金の改革が着手されるようになり、当該の2つのセクターではサービスがより効果的に行き渡るようになり、公共支出の比率も削減されるようになりました。

今後の課題

戦後復興のたくさんの課題への対応がなされている現在、ボスニア・ヘルツェゴビナでは、融和をさらに進め、復興から開発および債務削減への移行がきわめて重要となります。紛争と共産党体制の両方が終了したこの国は、近隣国の経済と競い合い、市民の生活水準を引き上げるために、困難な構造改革を実施するという課題に直面しています。

国際コミュニティが政治的および財務的な支援を縮小しつつあるなか、競争のある市場経済への移行をサポートすることが重要となります。

戦後の貧困

- 2004年、人口の18%近くが貧困ラインを下回る生活をしていました。
- 公式には、生産年齢人口のおよそ40%が失業の影響を受けています。職業幹

旋登録率の高さが問題をことさら深刻に見せているのは確かですが、最近の調査では、失業率が依然として18%から22%の間にあることが明らかになっています。

BHが直面する移行課題

ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦とスルブスカ共和国の経済統合をさらに進め、単一の経済圏とすることが、より多くの投資を集め、EU加盟プロセスを進展させるための必須条件となっています。

BHは、改革のスピードを速め、とくに競争力を強め、民間セクター主導の成長が実現するような環境づくりを行い、他の市場経済移行中の国と競い合わなければなりません。戦争とその後の復興があったために、BHは、移行改革という点では、東欧や中欧の他の国々に比較して、10年以上の遅れをとっています。

ビジネス環境の改善によって海外からの直接投資を促進し、さらに事業体に対する予算制約を厳しいものにして、事業体を利益主導型の、競争力のある企業へと変容させることが求められています。

国家制度の構築や社会的なセーフティネットの設置、強く要望されている政府の資本支出の増加といった課題に立ち向かうためには、財政支出の合理化および簡略化を進める必要があるでしょう。財政規律の維持、融資残高の増加の抑制、ならびに構造改革の加速によって、国際収支の赤字削減を行なうには、専門家の参画も必要となります。

不正防止のためのアクションプランを実行して絶えず不正をチェックすることも、経済改革を成功させるために欠かせません。

活力ある自立型の経済

ボスニア・ヘルツェゴビナでは、都市部のインフラストラクチャから保健、教育、輸送に至る、多くのセクターへの追加投資が依然として必要ですが、もっとも大きな課題は、支援に大きく依存している国家を、活力ある自立型の経済に移行させることです。

この課題に対応するためには、公共セクターを

改革し、民間投資ができる状態を築き上げるだけでなく、社会保護システムの強化と、それに続く、女性や若者も対象に含めた雇用機会の改善、ならびに貧しい人々の生活の向上を実現することが必要となるでしょう。

このような改革に含まれるものとしては、企業登録の簡略化、査察システムの改善、破産法の効果的な導入、戦略的な国営事業のさらなる民営化、ならびに効果的な労働市場プログラムの導入を含めた、労働市場改革などがあります。EU加盟プロセスでも、制度、手順および財務に関する国家レベルの管理を底上げすることが不可欠となるでしょう。

改革自体が複雑なものであり、また地方での技術能力が比較的低いため、上記のような改革を実施するには、財務、技術および政治に対する国際的な強いサポートが依然として求められています。BHはすでにIDAより例外的な支援を受けていますが、未だに十分な信用を得ておらず、比較的豊かな国を対象とした世銀の貸付機関である国際復興開発銀行(IBRD)からの融資を受けられない状態です。

BHは依然としてIDAのサポートに依存しながら、その目的を達成こととなります。ただし、BHの信用度も改善しつつあり、さらに同国が望む大規模なインフラストラクチャ・プロジェクトはIBRDしか資金提供ができないものであるため、DAからの卒業も現実味を帯びてきています。たとえば、ボスニア・ヘルツェゴビナと近隣の欧州諸国を結ぶ予定の自動車道、汎欧州Vc輸送回廊(pan-European Vc corridor)では、IBRDのリソースを利用することができました。

BH復興活動への参画によって得られた教訓

戦争終了後からちょうど10年間で達成された、ボスニア・ヘルツェゴビナの復興は、今後の参考として役立つことができます。

- 当初より、しっかりと参画する。1995年後半、戦いがまだ完全に終わらないうちに、IDAとECはリソースの注入を開始しました。それに合わせて、ドナーたちはデイトン和平会議において、50億ドル以上の拠出を誓約しました。この資金パッケージによって復興の見通しが立ち、正常な状態への回帰という好ましい成果が生まれ、さらに戦争当事者間での和平協定締結も可能となりました。
- 現場で強いプレゼンスを維持する。紛争後の状況は複雑なもので、さまざまな勢力や組織が関与しています。プロジェクトの監視、他のドナーとの協力関係の維持、ならびに絶えず変化する状況への迅速な対応を行なうには、現場でのプレゼンスが不可欠です。
- 構造改革に早く着手する。BHは基本的な復興については素晴らしい成果を挙げましたが、主要な構造改革の着手は遅く、現在も他の経済移行中の国々に遅れをとっています。
- 戦略を明確に示し、改革を実行できるように、政府の能力を強化する。
- プロジェクトを地域の実情に合わせる。素晴らしい実績を記録した投資プロジェクトとは反対に、一部の開発政策ローンは、すでに複雑化していたBHの政治および行政組織にはあまり相応しいものではなかったということが明らかになりました。政策ローンは、あまり複雑なものにせず、対象を絞り込む必要があります。

2007年2月

<http://www.worldbank.org/ida>